

令和7年度第3回河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

日 時 令和8年1月7日（水）午後7時00分～8時30分

場 所 河内長野市役所501会議室

出席者 車谷委員長、實楽副委員長、佐藤委員、宮崎委員、宮地委員、飯田委員、
おぐし委員、吉年委員、尾花委員、池内委員
(河内長野市) 水上室長、東課長、谷口課長補佐、西尾グループ長、玉置

開 会

(事務局)

定刻となりましたので、ただいまより河内長野市文化振興計画推進委員会を開会します。委員の皆様には、お忙しいところご出席いただきありがとうございます。私は、本日の司会を務めます文化・スポーツ活性課の玉置と申します。それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。

※資料の確認。

それでは、本日の委員の出席状況をご報告します。河内長野市文化振興計画推進委員会運営規則第5条第2項の規定により、10名の委員のうち過半数の5名以上の出席が必要となっています。現在、2名オンラインでのご参加、現地にて8名出席、会議の成立要件を満たしていますので、報告します。

車谷委員長、議事進行をよろしくお願いいたします。

(車谷委員長)

それでは、会議の公開及びその方法について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、会議の公開について説明します。

河内長野市附属機関等の設置、運営及び公開等に関する指針第11項に基づき、河内長野市で行われている会議は原則、公開となっており、第12項に「会議の公開又は非公開は、附属機関等の長が当該附属機関等にはかって決定する」とあります。そこで、過去に開催した当委員会の会議でも公開としていたことから、引き続き、当委員会は公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

また、同指針第13項に「会議の公開は、会議の傍聴を希望する者に、当該会議の傍聴を認めることにより行う」とありますので、傍聴に関して必要な事項を定めさせていただきたいと思います。

併せてご審議をお願いします。

(車谷委員長)

当委員会の会議を公開することにご異議ありませんか。

意義なしと認め、当会議を公開とし傍聴を許可します。傍聴者がいましたら入室させてください。

(事務局)

本日はいません。

(車谷委員長)

それでは、案件に移ります。案件1「第3期文化振興計画（案）について」ですが、事務局から説明をお願いします。

案件1

第3期文化振興計画（案）について

(事務局)

メインビジュアル及び計画（案）および第3期文化振興計画（案）について別紙資料のとおり説明

(車谷委員長)

ただいまの説明に対して、ご意見をいただきたいと思いますが、その前に寶楽副委員長より提案事項がありますのでその説明をしていただきます。

(寶楽副委員長)

この検討資料は評価指標の議論の一つとなればと思っています。計画の素案38ページに3つの指標が挙げられていますが、もう少し追加できればと考えています。1ページ目(1)はこれまでに委員会で出てきた論点を自分なりに整理し、アンケートとの整合性も見ながら考えて1から6まで抽出しました。この1から6の論点をもし評価指標に加えるなら、1ページ目(2)の内容となっています。今、市で挙げているのは、あくまで評価が明確にできるアウトプット評価と言われるものになるのですが、もう少し踏み込んで、「1.文化事業の認知度の低さ」では市が実施する主要な5つの文化事業の認知度が何%上がったかという指標もあるのではないかと思います。「2.「興味のある分野がない」というミスマッチ」ではエンターテインメント性を重視するのか、市民が主体的に表現できる活動の機会を増やすのかという議論が出ていましたので、少し無理やりですが、ラブリーホールの入場者数や文化振興事業の延べ参加者数を挙げています。ただ、河内長野の文化芸術の向上はラブリーホ

ールの入場者数だけではないと思っています。「3. 時間的制約による参加の困難さ」については、働き盛りの世代（30代～40代）の文化にかかる時間が増えたかどうかはアンケートで取れると思い、入れました。「4. 情報発信の格差と到達の遅さ」については、結構二分していて、すごく満足している人と満足していない人によって、文化芸術に関する満足度の差が出ています。一定満足している人がより情報発信の格差が減ったとか、満足度が上がったというのを取ると指標になると思っています。「5. 文化の「閉じられた」印象と観光への期待」は、文化は観光と結び付けていかないと今後の文化芸術の振興が個人的には難しいと思っています。ですので、産業や観光との分野と文化のコーディネーションされた事業が一つでも増えたとか、コーディネート体制の整備事業を実施したなどが評価項目となると思います。アンケートの中でも、観光振興の期待はすごく高く、文化との結びつきが求められる分野の第1位であったことを受け、この項目を入れたらいいのではと考えています。「6. 子どもへの体験機会の不足」では、行政に求める役割として「子どもが日常的に文化体験できる環境の整備」への満足度を挙げています。必ず全て指標に入れてほしいという意味ではなく、検討いただければと思います。

コーディネート機能については、すごく思いが強く、計画にももちろん具体的な文言になっているのですが、この委員会でこのような議論があったというコラムを載せてはどうかと思います、（3）1に書かせていただきました。

【コラムイメージ】

文化を繋ぎ、新しい価値を創り出す「翻訳者」としてのコーディネーター

第3期計画において、文化振興の鍵を握るのは「コーディネーター」という存在です。しかし、ここでのコーディネーターとは、単に事務的なスケジュール管理を行う「調整役」ではありません。文化振興計画推進委員会の議論では、コーディネーターの真の役割は、異なる分野や人々を繋ぎ、新しい価値を生み出す「翻訳者」であり「伴走者」とであると定義されました。

異なる「言語」を翻訳し、対等な関係を築く

アーティスト、福祉施設、教育現場、そして行政。それぞれが持つ異なる価値観や専門用語（言語）を相互に理解できるよう通訳し、お互いの強みを引き出し合う「対等な関係（対等性）」を構築します。例えば、山を鳴らしたいアーティストと、舞台を支えるホールの専門性を繋ぐことで、これまでにない感動が生まれます。

ピラミッド型から「ネットワーク型」の共創へ

これまでのトップダウンの組織運営ではなく、市民や団体が自発的に繋がり合う「ネットワーク型」の連携（共創参加型）を重視します。誰か一人のプロデューサーが仕切るのではなく、多様な個性が「共に（Co）」「整列（Ordinate）」して同じ目標に向かう、風通しの良い仕組みづくりが重要です。

「ボランティア」を超えた持続可能な体制

これまでは熱意ある個人のボランティア精神に頼っていた側面がありました。今後は、コーディネート機能を組織として明確に位置付け、福祉・教育・観光といった他分野とも有機的に結びつくことで、文化が社会課題を解決し、まちの活力（にぎわい）を生むための持続可能な基盤を整備することが求められているのではないのでしょうか？

次、3 ページ目の2「点」から「線・面」へのネットワーク化は、尾花委員の発言を受けて衝撃だったので入れました。併せて3 コーディネーターの役割のこれら2つは、第2期で進捗がなかった部分として書いていて、コーディネーターの役割は行政だけが行うのではなく、民間も頑張らないといけないという話もありましたので、今後そういった議論をしてはどうかという内容を計画のどこかで載せることができればいいなと思ったので記載しました。今回皆様に特に意見をお伺いしたいのは2 ページ目の評価のことになります。

（車谷委員長）

ありがとうございました。計画3 4 ページの指標について、今は3 点しかありませんが、もう少し観点を増やして指標を明確にすればどうかというご提案でした。そのことも含めてご意見を頂戴したいと思います。また、先ほど事務局から説明のありました前回の議論に基づいて修正した箇所についての意見もいただきたいと思います。

（吉年委員）

メインビジュアルについて、実際の絵をみてイメージが沸いてきたことによって出てきた疑問ですが、今描かれている要素がどのような経緯で選ばれたのかを説明できるのか、同じ分野でも大きさや描かれている人の数などは異なっていたりすることもあるため、どのようなストーリーや気持ちからこのビジュアルの作成に至ったのかを確認しておきたいです。

（車谷委員長）

メインビジュアルの内容について選定した意図の説明は可能ですか。

（事務局）

どういった絵を入れようかという点については事前に委員会で相談させていただいていたという前提ですが、一般的にそのイメージするものの代表的な写真をベースに、これらのイラストを描いていただいています。代表的な写真というのが西代神楽の場合であれば複数人入っているが、逆に日野の獅子舞はインパクトある写真が1 人であって、デザイナーの方がその写真を参考にして描いているという状況です。

あと、日野の獅子舞と西代の神楽の違いという点についてはデザイナーの方はかなり気にしている点で、どこに違いがあるのか聞かれた際には、文化財の担当課に確認し伝え、写真

もお渡ししています。日野の獅子舞の場合は女性の舞もあるとお伝えしたので、それを採用されたという形かと思います。

(車谷委員長)

ビジュアルはまだ修正可能ですか。

(事務局)

他のポーズがいい等の修正は可能です。こちらはあくまでラフ案となっていて、ブラッシュアップされて完成されるという形になります。キャプションの入れ方も変わると思います。

(吉年委員)

このメインビジュアルに描かれているものが全てではないという点は大切だと思うので、絵をみて調べてもらえるようにキャプションは書かないようにしたり、「河内長野市にはほかにもたくさんの豊かな魅力がある」ということが分かるような文言を加えるなどはいかがでしょうか。

(佐藤委員)

カラーの感じは良いですが、文字（キャプション）が気になったので無くても良いと思います。イラストとしては、全て並列になっているので、サイズ感を大小バラバラにしてみたり、ジャンルごとにまとめると、見てくださった方のイメージもしやすいのではないのでしょうか。ジャンルが異なる配置にしてたどっていく楽しさを残すのであれば、地図のようにするなど何か良い方法があるかと思います。

(おぐし委員)

日野の獅子舞は2人で舞っているので、2人分の描写が欲しいと思います。

(車谷委員長)

事務局には今の意見を踏まえて、メインビジュアルの件改めてご確認いただければと思います。では、副委員長からありました進行管理についてご意見をお願いします。

(宮崎委員)

副委員長がおっしゃる通り、3つの評価指数というのはざっくりしているイメージがあります。方針2に関係する内容として、「(基準は必要だが)文化活動に何事業や何回ぐらい関わったのか」をカウントしていくというのも指標として良いのかと思いました。主観的な問い方にはなるが、「河内長野の文化芸術の鑑賞・参画・創造の機会が充実しているのか」とい

う感覚的なものを追っていくと、市民がどう文化政策に対して思っているかを知ることができそうですので、そのような指標も良いかと思います。

（宮地委員）

計画自体は良くなっているとは思いますが、副委員長のご意見の通り、指標の部分は非常に重要であると思い、量的な部分についてもできれば触れてほしいと思う。自身の経験の中で、ジャンルを網羅的にするとなかなか進まないということは感じますので、年度ごとにジャンルを絞って取り組むなどするといいと思う。

（車谷委員長）

網羅的には難しいという意見もあるが、いかがでしょうか。

（寶楽副委員長）

アンケートの項目のなかで何か1つでも計画の変化を追いかけるような問いをいれてみることも良いと思います。また、コーディネーションをした事業数やアートマネージャーやコーディネーターの事業数、または人数をカウントしていくことも重要だと思います。本委員会のなかで計画の進捗確認を行う際に、意見が出て政策の具体化にもつながると考えています。

（車谷委員長）

寶楽副委員長が今回の検討資料の中で一番大切にしてほしい点はどこでしょうか。

（寶楽副委員長）

連携の事業数の把握、コーディネーター数、コーディネーターの管理です。計画の方針2を評価できるような指標は必要だと思います。2期からなかなか評価がされてこなかった部分であり、市がアートやまちづくりなどに参画している人の把握ができていないということが課題だと感じています。コロナの影響で行政の役割や動き方も変わり、まちが見えなくなってきたと思っていますので、行政が取り組んでいる事業のコーディネーター、もしくはコーディネーションした事業の把握、民間の活動の把握、ラブリーホールが頑張ったことの評価をするなど、様々なことを追いかけていこうという気持ちがない限り、毎年の評価結果に現れてこないです。

（車谷委員長）

この数を読むというのは大変難しい作業になると思いますが、行政としては可能ですか。

(事務局)

不可能ではないと思います。今皆様はコーディネートを実現した事業というのは、例えばどのような事業のことを考えていますか。調査するのは簡単です。「文化的なコーディネーターした事業ありますか」と聞けばいいのですが、それはおそらく違うと思いますので、コーディネートした具体的な事業例をお教えいただければと思います。佐藤委員も取り組まれていると思います。

(佐藤委員)

和泉市でのトンネル・アートプロジェクトや、神戸の長田での活動などがあります。

(宮崎委員)

市民コーディネーターという概念もあり、例えばボランティアで参加をして、情報発信を手伝うとか、何かセッティングや受付を手伝うなど、そういったものも市民コーディネーターと言えると思います。そういった人材育成をしている自治体もあります。

また、文化振興財団のラブリーホール事業で、財団の職員だけでなく人を繋げたり、紹介したりなど、連絡を取り合ったりするような人材をコーディネーターやプロデューサーと呼べることもありますので、割と幅広く定義をして、そういった人たちと関わったことをカウントしていくのもいいのではと思います。カウントをするために意識するというのが職員にとっても重要だと思います。そういう人たちがいることによってできること、達成できたことに自然と意識がいきますので、単純に数えるだけではなくて、数えることによって意識して、そういう分野が必要だと思えることも、評価指標を設定するという上では重要なことだと思っています。

(車谷委員長)

具体的にカウントするとき、どういった観点でカウントするのが難しいですね。例えばコーディネーター数で表していくと、その数が増えていくということは、事業の展開もたくさん増えることに繋がります。そういう意味の目に見える指標、数というのが必要になってくるのではないかというご意見ですね。

(宮崎委員)

数を増やすことに集中してしまい、本質的なところが見えなくなってしまう恐れもあります。数を数えることも重要ですが、どういうふうに数えるのかという点について、常に議論し続けることが必要だと思います。

(事務局)

委員の皆様が暮らしや活動する中でコーディネートされた内容を紹介していただけないでしょうか。

（宮地委員）

私はラブリーホール時代に世界民族音楽祭など色々行ってきましたが、事業の数というより、どういった事例が出てくるかということが重要だと思っています。音楽祭といった事業に落とし込まなくても、例えばこういう会議をしました等、形には残らないが、人がこういうことについて考えたという場ができたといったことも含めて、数よりは今年度はこんな事例がありましたという報告でもいいと思いました。こういったことはフェーズがあると思いますので、会議をして集まることが重要なところと、それが結果的に何かものになって出来上がってくることがあると思いますので、まずはどのフェーズでもいいので、形が出来上がった、そういうことをやったということが重要だと思います。

（尾花委員）

事業やイベントの集まりは無数にあると思っていて、このコーディネーターというのは、はっきりとした定義がよく分らないです。コーディネーター自体があまり整理されていない感じがあり、どんなコーディネートが文化振興に該当するのかを深めたほうがいいと思いました。民間が今どんな目的で、どんなことをしていて、地域の1コンテンツとして地域が活性化することを狙っているのかなど、全然知られていないがこの人こんなことをやっていたというのが出てくると思うので洗い出しが大事かと思っています。

（宮地委員）

尾花委員の意見非常に重要だと思います。今、なにがどこで行われているか見えていない状態だと思いますので、1個ずつ事例にあげて記録していくことができるという状態になれば、もっと何か見えてくるものがあると思います。調査まで行かなくても、事例が積み上がっていけば、あの人とあの人を繋げたら新たなことが生まれるかもといった話になるかもしれませんので、一旦何でもいいので事例をあげていくということが始まりだと思います。

（車谷委員長）

今皆様のご意見を聞いていますと、まずは現状を把握していくことが大事だということですね。それを具体的に指標にできるのかというところが難しいですが、そこを拾っていくということがこれから大事になってきます。随分前からコーディネーターの育成という言葉があったが途中で止まってしまっていました。やはり非常に把握しにくい部分です。数的に単純に表すのではなく、河内長野市でどれだけ増えてきているのか、それによってたくさんの活動ができるのか、何らかの形でコーディネーターを表せばいいですが、ご意見いかがでしょう。

(寶楽副委員長)

河内長野で長く事業をしてきて、迷惑な人扱いをされてきたという認識が自分の中にあります。今まで通りの事業をそのまま行ったら皆楽だと思いますが、それでは面白くないし、違う分野や違う事業と組み合わせていくことで新しい価値は生まれると思っています。

サキタハヂメさんがされている奥河内音絵巻も万博を通じて、次のフェーズに上がったと思いますが、本当に最初るとき、サキタさんが山を鳴らしたいといったときに森林組合さんの反応はどうだったのでしょうか。そういうところをコツコツ積み上げてきて、あそこまでいったのだと思います。この事業の影響を受けてラブリーホールの事業の在り方も変わってきたという面もありますので、「多様な主体の共創を促進するコーディネート体制の整備」という方針を河内長野市として推進し、コーディネーターは迷惑な人じゃないという風に10年後変わっていただきたいと思います。

これまでの10年間、コーディネーター事業については議論が行われてきませんでした。ですので、今後は、「これってコーディネートなのか」「情報発信というコーディネーションしました」など議論を交わし、それから次の政策が生まれてくるのではと思います。

(車谷委員長)

今コーディネーターの話となっていますが、文化振興の一番大事な根本的な部分も含まれているのではと思います。評価指標にコーディネーターの高まりという項目をどう表記して入れるかを考えていかなければなりません。

(飯田委員)

「私はコーディネーターです、コーディネートしてあげます」と思ってコーディネートしている人は多分いないのではと思います。気づいたらコーディネートしていたというのが多いのではと話を聞いていて思いました。事例を集めていただいたら、「あ、こんなこともできるんや」などヒントにもなると思いました。

(事務局)

事務局が提案させていただいた指標というのは、数字でカウントすべきだというご意向もありましたので、現在の時点で取れる数字を提案させていただいています。3月31日現在の市民満足度や4月1日現在の入館者数など。今の議論では、積み上げていくことが大事ということですので、例えば令和7年度の1年間にコーディネートした事例を委員の皆様・事務局・ラブリーホールからこの推進委員会に報告するような形で計画に盛り込むのはいかがでしょうか。

(寶楽副委員長)

今のラブリーホールの入場者数だけで進めてしまうと、ラブリーホールはおそらくコーディネートしているということを報告しないと思います。もちろん、入場者数が必要ないという意味ではなく、そこだけにフォーカスしてしまう可能性があります。文化振興計画の方針に基づいて、ラブリーホールも、市も報告をしてほしいです。市民がコーディネートしている事業も拾ってきちんと報告されるのであれば納得できます。

(事務局)

事務局で全てを網羅して調査をし、この委員会へ報告するというのは難しいと思っています。ですので、その時点で報告できるような事例をラブリーホール含めて集め、そして委員の皆様も1年間何か感じられたことを報告するような委員会にしてはどうかと思っています。

(車谷委員長)

事務局からは事例の積み上げを1つの指標としてはどうかと提案がありましたが、いかがでしょうか。

(寶楽副委員長)

評価体制の箇所に、方針1～4の実現のために評価や分析を行うといった文言を書くことで、今後議論が高まっていくと思います。

(事務局)

事務局としては、評価指標の4つ目にコーディネーター事例を入れる形でいかがでしょうか。

(寶楽副委員長)

賛成です。それにプラスして、継続的に議論をしていこうという意味で評価体制に文言を入れたいです。

(吉年委員)

前提としては大賛成ですが、一定の指標がないと事例さえも出せない、そして根幹の議論に至らないのではないのでしょうか。このような形で報告してくださいという一定の基準がいろいろあります。

(寶楽副委員長)

例えば毎年度3事例を検証し、この10年間で30事例を検証するなどはどうでしょうか。

(事務局)

それは指標の数字となってしまうのではないのでしょうか。

(宮地委員)

今はどれがどう当てはまるのか分からない状態ですので、まずはとりあえず事例を拾うというのが1番の目標で、それを一度やってみて、これが駄目だということであれば次の手を考えればいいと思います。

(車谷委員長)

きっちりとこういった数で、こういう基準でというのを考えないで、色んな事業を積み上げていこう、そして、その中で必要な数字等が出てくれば、それに基づき進めていこうという提案ですね。何もしないよりは積み上げていく方が進捗状況が分かるという意見でした。

(寶楽副委員長)

評価の分野とケーススタディの分野があるのですが、ケーススタディで方針2に基づくコーディネーションが効いた事例があったことを文化振興計画推進委員会に報告することは1つのアウトカム評価になると思います。

(事務局)

では、指標という数字ではなく、体制や文言の中に今までのご意見を掲載させていただきます。また、今後年に1回程度委員会を開催し、方針2の8つの項目に対して事務局側から事例の報告をさせていただきますので、そこで評価いただくのはいかがでしょうか。

(寶楽副委員長)

検討したが不明というのは無いようにしてください。報告に対してきちんと指摘できるようにしたいと思います。

(事務局)

コーディネート以外の指標はいかがでしょうか。

(宮地委員)

6つあったうちの3番と6番です。30代、40代の若い世代の参加率を指標に入れてほしいと思います。全体的な数を増やすというのはもちろんなのですが、現場の感覚としては、高齢者向けの事業を行うと参加者数は増えます。逆に一番難しい若い世代、子ども世代の参

加をどう増やしていくかということは非常に重要だと思いますので、ぜひ指標に入りたいです。

(事務局)

具体的にはどんな数字のことでしょうか。

(宮地委員)

単純でいいと思うのですが、ラブリーホールであればアンケートを取っていると思いますので、その世代の数だけでも拾えたら経年変化は見えると思います。

(事務局)

満足度調査のクロス集計であればあると思います。宮地委員は調査の分析ということでしょうか。

(宮地委員)

そうではなく、指標です。指標にラブリーホール入場者数が入っていますが、この中で、30代・40代の参加者も取れるのではないのでしょうか。

(事務局)

そういった数字が出せるかどうかは即答できかねます。本日最終となりますので、方向性として入場者数なり、満足度なりで年齢分析するという文言を入れる形でいかがでしょうか。ラブリーホールの入場者数に年齢の内訳はおそらく無いと思います。ただし、アンケート調査には年齢別がありますので、そちらを使うのは可能だと思いますが、確定したお返事ではないです。

(賓楽副委員長)

提案ですが、評価指標には若い世代の参加者数を入れるとして、今回の実数はクロス集計から取れると思いますので、そこから10年後の目標を設定します。今後10年間どう測るかは事務局が決めたらいいいのではないのでしょうか。

(事務局)

落としどころとして、宮地委員のご意見のとおり現役世代、子ども世代に対する指標を何かしら検討するという事でいかがでしょうか。今ご議論いただいたことは可能な限り文言の中に入れさせていただきます。そして毎年度、この推進委員会を開いて評価、検証を行っていきますので、その際にも本日の議論をフィードバックして話をできればと思います。

(車谷委員長)

課題として世代別の部分については、文言の中に落とし込んでいただくという形で委員の皆様ご了解いただけますでしょうか。

本日は本当に大事な部分が議論されたのではないかと考えています。中々解決できるような課題でもありませんが、これから積み上げながら考えていきましょう。

特に他にご意見がなければ今回の素案を委員会の提案書という形としたいと思いますが、ご了解いただけますでしょうか。

では、たくさんの課題がまだまだ残っていますし、今後どうしたらよいかという点については、進捗状況も含めて、議論を高めていければと思います。計画については、文言を少し加えていただくという条件でお願いいたします。本日の案件は以上となります。事務局から連絡事項をお願いします。

(事務局)

今後、1月中に市長まで確認させていただき、2月には市議会の方へ報告させていただきます。その後、パブリックコメントで公共施設へ計画案を設置し、市民の皆様からご意見をいただきます。ご意見がありましたら、返答を公開する予定となっています。そして3月末には計画策定となります。

また、皆様2年任期で委嘱をさせていただいており、今回イレギュラーで2月21日が任期終了となっています。ただ、今後もこの推進委員会の中で計画の進行管理も行っていくと考えておりますので次期委員として4月1日より委嘱させていただければと考えています。令和8年4月1日より次期の文化振興計画推進委員会を続けていきたいと思っておりますので、ぜひ委員の皆様には再任の方向でお願いできればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

(車谷委員長)

それでは、閉会とします。皆様ありがとうございました。